

**国語科学習指導案**  
**単元名「登場人物の行動をくわしく想像し、音読劇をしよう」**  
**教材名「お手紙」**

令和5年10月 第2学年 指導者 鈴木 智子

## I 単元の構想

### 1 単元観

本単元では、場面の様子から登場人物の行動を具体的に想像することをねらいとしている。会話文を音読してみることで捉えられた具体的な登場人物の行動を叙述に基づいて説明したり、意見交流したりしながら、自分なりの読みを深めさせたい。また、本単元では、言語活動として音読劇を設定し、自分たちが叙述を基に具体的に想像してきた登場人物の行動を音読劇に表し、1年生に見てもらおうことを計画している。劇化するためには、会話文をどのように読むかということだけに留まらず、登場人物の動きや表情、立ち位置などを豊かに想像する必要があり、登場人物の行動を具体的に想像することのできる言語活動であると考えている。

本教材「お手紙」は、一度もお手紙をもらったことがなく、そのがまくんを喜ばせようと内緒でお手紙を出すかえるくんの話である。友達の不幸せと一緒に悲しみ、幸せを共に喜ぶ二人の温かな心の交流が描かれている。また、登場人物の行動を中心に、場所や時間の移り変わりがはっきりと描かれ、物語の展開を捉えやすい作品である。さらに、二人の会話によって物語が展開されていくため、中心となる二人の会話の様子を具体的にイメージしながら丁寧に読み進めることで、二人の行動やその行動の理由まで想像することができる。また、作者自身が描いた挿絵からも登場人物の様子や心情を読み取り共感したり、想像を広げて読み進めたりすることができると思う。

### 2 研究との関わり

本研究は、言葉を吟味し、読みを深める児童の育成を目指すものである。「言葉を吟味する」とは、叙述にある言葉がもついくつかの意味の中からその場面の様子や登場人物の気持ちにふさわしい意味を自分のもつ知識や経験から考えることである。こうして吟味した言葉を中心に物語を読んでいくことにより、今までよりも場面の様子や人物の様子が具体的に想像でき、児童の読みを深めることにつながっていくと考えている。

本単元では、言葉を吟味し、読みを深める児童を育成するために、初めに叙述の中から焦点化した部分の音読の場を設定する。焦点化する部分については、同じ言葉でも場面によって別の意味合いをもつ言葉やその言葉をどのように捉えるかにより解釈が分かれる部分を提示する。また、会話文による物語の展開であることから、音読についてはペア音読とし、動作化も取り入れ、具体的な行動が想像できるようにする。児童は、登場人物になりきって会話文を音読することにより、その場面を自分なりにどう解釈したのか意識する。さらに、その解釈が叙述のどこを基にして考えたものだったのかを自分で考えることで、自分なりの解釈と叙述を結び付け、根拠を明らかにすることができる。

こうして意識化した自分なりの解釈とその根拠について、少人数で交流していく。交流の際には、交流が効果的に進むよう、交流の手順や話型を示し、友達の解釈やその根拠の問い返しや教材文の読み直しによってグループ全体で理解できるようにしていく。グループ交流については、交流の時間が十分に確保できるよう、グループでの交流は2回実施する。また、グループ交流の後には全体交流を位置付け、学級全体でも考えを広げたり、深めたりできるようにする。このようにして叙述を基に友達と交流することにより、児童は自分の考えだけでなく、友達の考えも結び付けて、自分なりの考えを形成していく。

最後には、自分なりの考えを生かして再び音読を行う。友達との交流の中で得られた新たな視点を加えて読むことで登場人物の行動を具体的に想像することができ、言葉に着目して考えるよさを実感できるものと考えた。

### 3 単元の目標及び児童の実態

	目 標	児童の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"><li>・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。</li><li>(1)ク</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・文章を声に出して読むことが好きな児童が多く、元気に音読することができる。</li><li>・本単元以前の物語文で役割読みをしたり、音読発表会をしたりしたことを生かし、言葉の意味を音読に反映させて読める児童は少ない。</li><li>・多くの児童は、句読点を意識し、間を取りながら正しく音読している。</li></ul>

思考力、判断力、表現力等	・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。C(1)エ	・言葉そのものの意味は理解し、表面上は想像できている児童が多い。しかし、細部まで読んで考えなかったり、言葉の意味がよく分からなくても文字を読んだことで意味や内容を読み取ったこととしてしまったりしている児童もおり、その場面の出来事や様子などを尋ねても答えられないなど、適切に捉えられていないことがある。
学びに向かう力、人間性等	・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。	・物語を読むことに楽しさを感じている児童が多く、意欲的に学習に取り組んでいる。しかし、一度自分なりの読み取りができると、それでよいこととしてしまい、より深い読み取りを目指したり、粘り強く考えられなかったりする児童もいる。

#### 4 評価規準

知識・技能	・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。
思考・判断・表現	・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。
主体的に学習に取り組む態度	・進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、今までの学習を生かして音読しようとしている。

#### 5 指導及び評価、ICT活用の計画(全11時間:本時第7時)

過程	時間	<input checked="" type="checkbox"/> ねらい <input type="checkbox"/> 学習活動 <input checked="" type="checkbox"/> ICT活用に関する事項	知	思	態	◆評価項目<方法(観点)> <input type="checkbox"/> 指導に生かす評価 <input checked="" type="checkbox"/> 評定に用いる評価
つかむ	1	<input checked="" type="checkbox"/> 単元の課題を把握できるようにする。 <input type="checkbox"/> 教師の範読を聞く。 <input type="checkbox"/> 初発の感想を交流する。 <input type="checkbox"/> 登場人物の行動を想像しながら読んでいくための見通しをもつ。			○	◆単元の課題を捉え、音読劇に向けて、学習の見通しをもっている。 <観察(態)>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>[単元の学習課題]</b>            がまくんとかえるくんの行動を想像し、1年生にもよく分かる音読劇をしよう。         </div>						
追究する	2・3	<input checked="" type="checkbox"/> 内容の大体をつかめるようにする。 <input type="checkbox"/> 挿絵を基に、登場人物や場面の確認とともに、話の大体を捉える。			○	◆本文を基におおまかな場面の展開を捉えている。 <発言・記述(思)>
	4	<input checked="" type="checkbox"/> がまくんとかえるくん、それぞれの悲しみを具体的に想像できるようにする。 <input type="checkbox"/> 1の場面のがまくんの台詞から、どのように音読するのがよいかを考える中で、登場人物の行動を想像する。 <input checked="" type="checkbox"/> 音読の録音			○	◆音読したり、友達と話したりしながら、本文を基に登場人物の行動を想像している。 <ワークシート・発言(思)>
	5	<input checked="" type="checkbox"/> 手紙を書くかえるくんの行動を具体的に想像できるようにする。 <input type="checkbox"/> 2の場面のかえるくんの台詞から、どのように音読するのがよいかを考える中で、登場人物の行動を想像する。 <input checked="" type="checkbox"/> 音読の録音			○	◆音読したり、友達と話したりしながら、本文を基に登場人物の行動を想像している。 <ワークシート・発言(思)>

	6	<p>■かえるくんが手紙を出したことを知ったがまくんの行動を具体的に想像できるようにする。</p> <p>□3の場面のがまくんの台詞から、どのように音読するのがよいかを考える中で、登場人物の行動を想像する。</p> <p>★音読の録音</p>	●	<p>◆音読したり、友達と話したりしながら、本文を基に登場人物の行動を想像している。</p> <p>＜ワークシート・発言（思）＞</p>
	7 本 時	<p>■お手紙の内容を知って喜ぶがまくんの行動を具体的に想像できるようにする。</p> <p>□3の場面のがまくんの台詞から、どのように音読するのがよいかを考える中で、登場人物の行動を想像する。</p> <p>★音読の録音</p>	●	<p>◆具体的に登場人物の行動を想像し、叙述を基に根拠を挙げて音読の仕方を考えている。</p> <p>＜ワークシート・発言（思）＞</p>
<p>[本時のめあて]</p> <p>3のばめんのがまくんのせりふから、ふたりのしたことをくわしくそうぞうして、音読のしかたを考えよう。</p>				
	8	<p>■幸せな気持ちで座る二人の様子を具体的に想像できるようにする。</p> <p>□内容が分かっている手紙を待つ必要があったのかを話し合う中で、登場人物の行動を想像する。</p> <p>★音読の録音</p>	●	<p>◆友達と話したり、台詞を考えたりしながら、本文を基に登場人物の行動を想像している。</p> <p>＜ワークシート（思）＞</p>
	9	<p>■想像したことを生かして表現できるようにする。</p> <p>□グループごとに読む場面を決め、音読劇の練習をする。</p> <p>★練習の記録</p>	○	<p>◆読み取ったことを生かして音読している。</p> <p>＜発表（知）＞</p> <p>◆自分の読みを生かした音読劇になるように、繰り返し練習している。</p> <p>＜観察（態）＞</p>
	10	<p>■想像したことを生かした音読劇の発表ができるようにする。</p> <p>□音読劇を発表したり、他の班の発表を見たりする。</p>	●	<p>◆読み取ったことを生かして音読している。</p> <p>＜発表（知）＞</p>
ま と め る	11	<p>■単元の学習を振り返り、登場人物の行動を詳しく想像するよさを実感できるようにする。</p> <p>□単元を振り返り、分かったことやできるようになったことをまとめる。</p>	●	<p>◆できるようになったことや分かったことを振り返り、記録している。</p> <p>＜ノート・発言（態）＞</p>

## II 第7時の学習

- ねらい 少人数での交流活動を通して、お手紙の内容を知って喜ぶがまくんの行動を具体的に想像できるようにする。

2 展開

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)</p>
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 (導入5分) S:今日は、がまくんのしたことがよく分かるように読むんだな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈めあて〉 3のばめんのがまくんのせりふから、ふたりのしたことをくわしくそうぞうして、音読のしかたを考えよう。</p> </div>	<p>○学習の振り返りができるように、前時は、3の場面の前半部を読み、もう手紙を待ちたくないがまくんの行動と、手紙を待ってもらいたいかえるくんの行動を読み取ったことを確認する。 ○前時までの学習内容が分かるように、これまでの学習のまとめを教室内に掲示しておく。 ○今日の学習場面がつかめるように、3の場面の後半を音読する。 ○本時のめあてがつかめるように、板書する。</p>
<p>2 音読の仕方を検討する部分を確認し、音読したり、ワークシートに自分の考えた読み方や、どうしてそのような読み方にしようと思ったのかを記入したりする(★音読の録音)。(展開①10分) S:お手紙をもらえることが分かって、すごくうれしいと思います。うれしすぎるから、叫びたいに読みました。 S:親友と書いてあってうれしかったと思うから、うれしい気持ちが分かるように大きく読みました。 S:かえるくんが親友とであることをうれしく思うと書いてくれて、感動したと思うから、小さく読みました。</p>	<p>○音読の仕方を検討する意義が感じられるように、1の場面を思い出し、どちらにも使われている台詞があることを確かめたり、「ああ」を使うことは日常生活には他にもあることが気付けるように、使う場面を問いかけたりする。 ◎着目する言葉が明確になるように、話し合う部分は限定して提示する。 ○具体的な人物の行動を想像しながら音読できるように、ペア音読をし、がまくんの表情やかえるくんととの位置関係についても想像してみることを促し、動作化してもよいことを伝える。 ◎その後の交流に生かせるように、自分の読み方の根拠となる部分に赤線を引くよう促す。 ◎自分の考えが表出できるように、ワークシートに記入することを促す。 ◎交流活動が活性化するように、どうしてその音読になるのかが友達に伝えられるようにしておくことを助言する。</p>
<p>3 音読の仕方を検討する部分について、どうしてそのような音読をしたのかをグループで交流する。(展開②10分) S:私は、ずっともらえなかったお手紙をもらえてがまくんはうれしい気持ちだったと思うから「やったー」みたいな感じで大きく読んだけれど、小さい声で読んだ方がいいと思う友達もいるんだな。 S:ここに親友って書いてあって、がまくんがすごくうれしいと思っていると分かったから、うれしい気持ちが分かるように大きく読んだけど、同じうれしい気持ちでも、線を引いているところは違うこともあるんだな。 S:がまくんはとでもいいお手紙って言っていたから、もらったことがうれしいよりも、書いてある中身の方がうれしいんだな。</p>	<p>◎根拠が明確になるように、教科書の赤線部を示しながら話し合うよう伝える。 ◎友達の見解についても、自分なりの考えがもてるように、納得できたら、青線を引くよう伝える。 ◎まとめの音読や振り返りで活用できるように、交流の中で、自分の意見として取り入れたい友達の考えや新たな気付きなど、メモしておきたいことがあれば、ワークシート内のメモ欄「なるほどコーナー」にメモしておくことを伝える。 ◎交流がスムーズに進むように、交流会の流れについて、交流パワーアップ作戦と交流パワーアップアイテムを見ながら全体で確認する。 ◎交流が停滞しているグループには、交流パワーアップ作戦をヒントにするよう促す。 ◎少人数での交流を全体に広げられるように、意図的に指名し、数名から考えを聞く。</p>

<p><b>4 がまくんが「とてもいいお手紙だ」と言った理由について考える。(展開③8分)</b></p> <p><b>S</b> : かえるくんが親友と言ってくれたからいいお手紙だと思ったけれど、そういえばわざわざ書きに帰ってくれていたな。がまくんはすごくうれいだろうな。</p> <p><b>S</b> : お手紙をもらって喜んでいるだけじゃなくて、がまくんがぼくのことを「親友」って思っていたのが分かったから喜んでいただんだ。</p> <p><b>S</b> : かえるくんは、ぼくと親友でうれしいと思ってきているって分かって、それで「とてもいいお手紙」と言ったのか。</p>	<p>○かえるくんのがまくんに対する思いが捉えられるよう、「親友」「親愛」とはどういった意味なのか問いかける。</p> <p>○自分の考えの根拠となる叙述に赤線を引くよう促す。</p> <p>○手紙の内容だけに留まっているグループには、内容だけに終始しないように、内容以外にはいいお手紙と考えられるところはないかを問いかける。</p> <p>○かえるくんの行動や気持ちまで考えが及ばない時には、かえるくんの行動や気持ちにも視点が向けられるように、手紙が届くまでの流れを確かめるよう促す。</p> <p>◎「いいお手紙」と考えられる様々な理由に気付けるように、意図的に指名して考えを聞く。</p>
<p><b>5 自分の考えをワークシートにまとめ、まとめの音読をする(★音読の録音)。(展開④7分)</b></p> <p><b>S</b> : いいお手紙をもらってうれしいから、最初は大きく読もうと思ったけれど、かえるくんのお手紙に親友であることをうれしく思うと書いてあって、がまくんはうれしすぎるから小さく読むことになりました。</p> <p><b>S</b> : かえるくんが、ぼくのためにわざわざ家に帰って手紙を書いたり、親友と言ってくれたりして、がまくんが喜ぶことをいっぱいしていたから、がまくんは、感動して「ああ」と言ったと思う。</p> <p><b>S</b> : かえるくんのお手紙に、きみの親友と書いてあったから、親友でうれしい気持ちが伝わるように大きい声で読みました。</p>	<p>○学習のまとめとなるように、友達との交流で考えたことを基に、ワークシートに自分の考えを記入するよう促す。</p> <p>○友達の音読の変化を確かめるために、最初のペアで音読し、まとめの音読を聞き合うよう促す。</p> <p>◎自分なりの音読ができるようになったか確かめるために、ペアで音読を録音し、自分の考えの変化や深まりを感じられるよう、最初と最後の自分の音読を聞き比べるよう伝える。</p> <div data-bbox="826 1048 1417 1223" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>◆評価項目</b>          具体的に登場人物の行動を想像し、叙述を基に根拠を挙げて音読の仕方を考えている。          &lt;ワークシート・発言(思)&gt;</p> </div>
<p><b>6 学習を振り返る。(終末5分)</b></p> <p><b>S</b> : 私は、がまくんがお手紙をもらえると分かって、うれしいから大きい声で読もうと思っていたけれど、かえるくんがわざわざ家に帰って書いてくれたお手紙だから感動していると友達が言っていて、それもいいなと思いました。うれしいよりもっとうれしいのかなと思って、最後は小さくゆっくり読みました。</p>	<p>◎充実した学習の振り返りとなるように、振り返り際には、始めの音読とまとめの音読の違いや、どうしてそのような音読にすることにしたのか、その理由や根拠について記入するとよいことを伝える。</p> <p>○学習の見通しがもてるように、次時はお手紙を待つ二人の様子を読み取ることを伝える。</p>

### 3 板書計画

<p>テレビ画面で デジタル教科書を映す</p>	<p>お手紙</p> <p>三のぼめんのがまくんのせりふから、ふたりのしたことをくわしくそうぞうして、音読しよう。</p>	<p>話し合うところ</p> <p>「ああ。」</p>	<p>うれしい ・うれしい ・お手紙もらえる。</p> <p>しあわせ ・親友と言われた。 ・かえるくんがくれたから。</p> <p>いいお手紙</p> <p>親友 親愛 ・かえるくんがわざわざ書いてくれた。 ・かえるくんがぼくとともだちでうれしいと思っ ているとわかった。</p>
------------------------------	---	-----------------------------	---